

## 磐高等学校入学・卒業式辞集(学而出版) その2

表記の学而出版からの書に拙著の式辞が載りました。ご参考までに、その原稿を掲載します。昨年の入学式と卒業式の式辞です。

卒業式式辞「社会全体の根底にある意識を考えよう」 磐城高校長

卒業おめでとうございます。高等学校での学習を修め、新たな進路へ向けて、三年生が今日この日に旅立つことをこの上もない喜びといたします。

これまでの一八年間は、人類が西暦2000年を迎え、次の世紀への始まりとして進み始めた時代でありました。2001年のニューヨークでのワールドトレードセンタービル事故や、2011年の東日本大震災及び原子力発電所事故といった大きな障壁が立ちほだかりながらも、AIに代表される新しい科学技術発展やスマートフォンの開発による大きな生活の変化が目まぐるしく展開した一八年間でもありました。

民族と宗教、政治と国家、アカデミズムと倫理、経済と社会発展といった大きな問題が顕在化し、解決がままならないうちにまた大きな問題に襲われているといったそれまでの世紀にはなかったトップスピードの変化の中に瞬時の対応を求められる時代となりました。変えてはならないものと変えなければならないものが混在する中で、逡巡せずに論理的思考力を基にした正確な判断と豊かな表現力が求められることは周知のとおりです。

卒業生の皆さん。自分から積極的に前に出て、様々な簡単には解決することのない問いを自分のものと受け止めて、地域課題、世代課題、世界課題にいついかなる時でも挑戦して行ってください。グローバルな問いを自分に引き寄せながら、共に生きる人たちといかにつながることができるかを考え、想像力を駆使して、新たな正しい時代を先導して行ってください。この学校で過ごした日々を胸に秘めつつこの学校で学んだ、ぎりぎりのところで踏み張りつつ決して妥協しない姿勢を全世界のどこでも貫き通してください。「必ずできる」と思うことこそが目標を達成する第一歩なのです。

養老孟司の「遺言」の文章にこんな一節があります。

「ヒトの生活から意識を外すことはできない。できることは、意識がいかなるものか、それを理解することである。それを理解すれば、ああしてはまずい、こうすればいいということがひとりでもわかってくるはずである。問題は意識について考えることをタブーにしてきたことである。ここまで、都市化、つまり意識化が進んできた社会では、もはや意識をタブーにしておくわけにはいかない。」

意識が作り上げた社会全体の根底にある意識を考え、自分が立っている足元を考察しながらもう一度、人とは何か、社会とは何か、存在とは何か、社会貢献とは何か、生きるとは何かを考察しつつ前へ進んでみていただきたい。それがこの磐城高校卒業生の魂です。

あせらずあわてずあきらめず明日を信じることで、未来をこじ開け、栄光をつかみ取っていきましょう。磐城高校卒業生には必ず花が咲くのです。諸君の成功を心から願いつつ式辞といたします。

